

ベンゾジアゼピン系睡眠薬からスボレキサントへの変更時に発生した 「悪夢」の副作用について

長谷川 明人¹⁾、長谷川 佳孝²⁾、前田 守²⁾、月岡 良太²⁾、森澤 あずさ²⁾、
大石 美也²⁾

- 1) 株式会社コム・メディカル ハート調剤薬局 糸魚川店
- 2) 株式会社アインホールディングス

【目的】覚醒に關与するオレキシンの作用を阻害して睡眠を促すスボレキサント(以下、SUV)には、「悪夢」の副作用報告も多い。本研究では、ベンゾジアゼピン系睡眠導入剤(以下、BZ)から SUV への変更時に発生した「悪夢」の副作用事例を報告するとともに、同様の事例が発生する危険性について考察した。

【方法】トリアゾラム(以下 TZM)から SUV への変更時に発生した悪夢の事例について、その関連性を検討した。また、2017 年 1 月～2019 年 6 月に当社グループが運営していた保険薬局 619 店舗の応需処方箋 34,303,727 枚を対象に、睡眠導入剤の処方状況を調査した。

【症例】トリアゾラム(以下 TZM)服用中の 80 歳代男性に対して、X 日に初めて SUV への変更が行われた。SUV 服用後、2 日間不眠となったために再受診し、TZM に戻された。X+56 日に SUV へ再変更されたが、SUV 服用 5 日後に悪夢が発生したために再受診した。再び TZM に戻され、悪夢は発生しなくなった。X+84 日には、ラメルテオン(以下、RAM)への変更が行われ、TZM も頓服処方された。RAM と TZM の併用では、悪夢が発生しなかった。

【結果】本症例は「日本医薬品安全性学会による被疑薬剤と有害事象の関連度評価基準」で判定 3(Highly probable)となり、高い関連性が示唆された(経時的関連性: +、デチャンレジ陽性(服薬中止による症状軽減): +、既存症状の悪化の可能性: -、薬理作用の説明の可能性: +)。処方調査では、全処方箋の 18.6%に睡眠導入剤が含まれ、BZ(69.0%)が最も多かった。睡眠導入剤が処方された患者の 10.8%に SUV の処方がされ、そのうち 9.0%は BZ からの変更であった。

【考察】SUV への変更と中止が悪夢の発生と強く関連した本症例から、TZM で抑制されていたレム睡眠が、SUV への変更で抑制されなくなったことが悪夢に關係することが示唆された。睡眠導入剤処方患者の約 1%に本症例と同様に悪夢の発生が危懼されるため、薬局薬剤師は服薬指導時に睡眠導入剤の服用歴や経過を確認する必要がある。

(第 15 回日本薬局学会学術総会(2021 年 11 月, Web)にて発表)